



子育てチャンネル

「遊び」から学ぶ大きさ

仕事とプライベートに関わらず、車を走らせていて釣りのできそうな小さな川を見つけるとうれしくなってしまう。

4歳のころ、父が私を川釣りに連れて行ってくれた。記憶は定かではないが、確か大物を釣り損ねたはずで、その「引き」がよほど楽しかったのだろうか。以来、私は釣りが大好きになった。一昨年の冬、4歳の女孫をワカサギ釣りにデビューさせた。すると今年は私より多く釣り上げた。隔世遺伝で釣り好きが受け継がれていくのかも知れない。

とてつもなくお転婆だった私は、2歳くらいからドアノブや椅子にぶら下がるのが大好きで、ある時、2階のベランダの物干しにぶら下がっているのを近所の人が見つけた。それで「落ちたら大変」と、父が家の前に鉄棒を造ってくれた。

それ以来、小学校が目の前だった時を除き、高校生の時まで、引越すたびに自宅に鉄棒があった。小学6年で高鉄棒から落ちて手首の骨にひびが入った時、担任に「サルも木から落ちたか」と言わしめたほどだ。小学生の時、当時住んでいた社宅が資材置き場とつながっていて資材の上を飛び回っていた。ゴム底が薄かった当時の靴裏から何度釘を刺したか知れない。

釘を抜いた後、「足裏を叩けば穴がふさがるよ」と母はまことしやかによく言っていたものだ。私は、母の言葉通り消毒もせずにとんと叩いていたが、今考えるとよくも傷口が化膿しなかったものだ。



今、私は曲がりなりにも体育を生業としている。思いつくせよ、常に自然の中で体を動かせる環境と、そこから学んだことが大きく影響しているのだと思う。遊びは最高の教師だった。

「不便が知恵を生む」大切なこと

世の中、何でも便利さが重宝されている。物があふれ、100円で便利グッズが手に入る時代。

でも経験
や知恵は
100円
では買えないし、
一朝一夕
に身に付く
ものではない。

見た目は同じように見えても、基本がしっかりしていなければポロが出てしまう。

言葉も同じだ。正しい言葉遣いを知らずに、使いやすさからと、崩した言い回しばかりで言葉を使ってい

ると、大人になってから正しい言葉遣いが出来ずに苦労するだろうし、調べものをインターネット情報に頼ってしまうと、ネットのない場所ではどうすることもできなくなる。

運動も然り。器械体操で例えると、きちんと肩に乗った真つすぐな倒立が出来ていなければ、バク転も鉄棒の大車輪もきれいに続けることができないのだ。

現代人は、子どもに限らず何でも短縮し、望むものをすぐ手に入れたがる。しかしそこに基本と工夫が見られず、楽をしようとするだけならば、後から回ってくるツケは決して小さくないだろう。

「不便が知恵を生む」―― 私たち大人は、何でも手に入る世の中だからこそ、大切なことを子どもに繰り返し伝えていかなければならない。心は3Dプリンターでは作れないのだから。

NPO法人・旭川TAGスポーツクラブ

大浦厚子